



子どもの人生をつくる「好奇心」の驚くべき力

1 知りたいという気持ちの大切さ

これからは豊かな好奇心の持ち主が求められる時代になると予想されています。社会が求めているのは、決められた手順をそつなくこなして、指示に従うだけでなく、それ以上の貢献ができるタイプを必要としています。

つまり、自ら学習し、問題を解決し、鋭い疑問を投げかける意欲のある人材が求められています。好奇心に満ちた学習者は深く、そして広く学ぶ傾向があります。専門知識と高度な判断力を必要とする職務、また異なる分野の知識をつなぎ合わせて新たな知識を生み出す創造的な活動ができ、複数の専門分野を横断するチームで働くのに適しています。

つまり、人工知能が最も苦手とするような仕事を担う存在です。人間の仕事が急速にテクノロジーに置き換えられつつある世界で、生き抜く力として、好奇心は非常に大切です。

2 好奇心を育てるには「労力」が必要

好奇心を育てるキーワードになるのが「労力」です。情報技術の発達によって労力を伴う知的探究がおろそかになりつつあります。インターネットにより簡単に答えが見つかる便利さから、深く探究する習慣が、つまり根気と集中力が求められる習慣が脅かされています。検索で最初に表示される答えを疑うような豊富な知識を身につける努力をしなくなってしまうです。

3 読書の重要性

好奇心を追究するのは学校の成績を上げるためだけではないです。一見役に立ちそうにない事柄も含め、学ぶことの本当の大切とは、自分だけの世界から抜けだし、自分が壮大な営み(世界)のなかで、生きているのだとあらためて思い起こすことにあります。

学校図書の本棚に並べられている本は、喜びと学びを得るためのものです。家庭で、その日にあった出来事だけでなく、読んだ本について語り合うことは、知的好奇心を高める働きをします。子どもが成長するにつれて、満ちたりていきいきとした人生を送るには、読書の習慣をもつことが欠かせない条件だと思います。